

国立病院機構 榊原病院

令和7年度 依存症関連問題 市民公開講座

帚木 蓬生 氏 特別講演

『国民病ギャンブル症の実態と 治療および家族のトラウマ』

国立病院機構 榊原病院

『榊原病院の依存症治療について』

やめたくても、やめられない

お酒（アルコール）、薬物、ギャンブル…。

摂取や行動を繰り返すうちに量や頻度が増え、自分では制御することができなくなり、身体の問題だけでなく、人間関係や社会的な関係にも悪い影響があらわれてきます。

この状態を“依存症”といいます。“依存症”は、脳の病気であり、こころの病気です。

誰でもなる可能性があります。適切な治療、人とのつながりなどを通して、“回復”していくことができる病気です。

著名な作家として数多くの名作を残しながら、同時に精神科医として、ひとの“こころの病”と長年向き合い、特にギャンブル依存症の問題については早くから警鐘を鳴らしてきた帚木蓬生氏を講師にお招きして、その実態や治療、家族への影響などについて語っていただきます。

講
師

帚木 蓬生（ははきぎ ほうせい）氏 プロフィール

精神科医・作家。東京大学仏文科を卒業後、テレビ局勤務を経て、九州大学医学部に学ぶ。医療・歴史・宗教・文学など幅広い題材を元にした作品を発表してきた。吉川英治文学新人賞（『三たびの海峡』）、山本周五郎賞（『閉鎖病棟』）など受賞多数、上記2作品は映画化もされている。小説以外にも、『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』が大きな反響を呼んだ。また精神科医として診療にあたる中で、早くからギャンブル依存の問題に着目し、いくつかの論文のほか『ギャンブル依存とたたかう』『やめられないーギャンブル地獄からの生還ー』『ギャンブル依存 国家・日本〜パチンコからはじまる精神疾患』『ギャンブル脳』等の著作を通じて、この問題が社会的・国家的な問題であることに警鐘を鳴らし続けてきた。

日
時

令和7年10月18日(土)

13:00 開場 13:30 開演

入場無料

定員280名 ※先着順・事前申込不要

会
場

三重県人権センター 多目的ホール

※駐車場台数に限りがあります(約180台) 乗り合わせての
ご来場、公共交通機関ご利用等のご協力をお願いいたします



主 催

(三 重 県)

独立行政法人 国立病院機構 榊原病院

＜三重県依存症治療拠点機関＞

アルコール依存症

薬物依存症

ギャンブル等依存症

※本講座は三重県委託事業として実施します。

【お問い合わせ】

榊原病院 地域医療連携室

TEL: 059-252-0211 (代表)

担当: 細川・大澤